

体外衝撃波が著効した難治性足底腱膜症の1例

○松井 智裕 (まつい ともひろ)(MD)¹⁾, 熊井 司 (MD)^{1),2)}, 飯田 昭夫 (MD)¹⁾,
河川 泰之 (MD)¹⁾, 大村 哲司 (MD)¹⁾, 田中 康仁 (MD)³⁾

¹⁾ 阪奈中央病院 スポーツ・関節鏡センター

²⁾ 奈良県立医科大学 スポーツ医学

³⁾ 奈良県立医科大学 整形外科

女子ラグビー選手に生じた難治性足底腱膜症に対して、体外衝撃波治療が著効した1症例を経験したので若干の考察を交え報告する。

症例は30歳,女性。ラグビーの女子日本代表選手。試合中に右踵部痛が出現したため近医に受診し、足底腱膜症の診断で保存的加療を受けたが、痛みのためトップスピードを出せない状態が続くことから当科に紹介受診となった。

初診時の超音波検査にて足底腱膜の肥厚および内部に高エコー領域を認めた。当科初診時にヒアルロン酸の超音波ガイド下注入を行い、一定の効果は得られた。しかし、足底腱膜内部の高エコー病変に対しては深層 fat pad 内に薬液を注入する方法よりも足底腱膜そのものに作用する体外衝撃波のほうがより有効であると考えて2回目の診察時から体外衝撃波治療を行った。体外衝撃波は1回2500発 11.9-14.5Jの低エネルギー照射を1週おきに3回行った。初回照射前はVAS4-5/10の疼痛を認めていたが、初回照射後にはVAS1-2/10に軽減し、3回目終了後の診察時にはVAS1/10に改善し、完全競技復帰を果たしていた。体外衝撃波は感覚神経の神経終末を破壊することにより疼痛軽減効果が得られると考えられている。また軟部組織の修復起点に働きかけることによって組織修復を促進するとも考えられている。作用機序などまだまだ未解明な部分も多い治療法ではあるが、既存の保存療法に抵抗性の難治性足底腱膜症に対して体外衝撃波治療は選択肢の一つになり得ると考えられる。